

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教科：芸術

科目：音楽Ⅰ

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1・2組：時田）（3・4組：時田）（5・6組：時田）（7・8組：時田）（組： ）（組： ）

使用教科書：（音楽ⅠTutti+ ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作で表現する。

【思考力、判断力、表現力等】音楽を形作る要素について知覚し、感受したこととの関わりを考えて表現する力を身に付けさせる。

【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組む姿勢を養う。

科目 音楽Ⅰ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創							
1 学 期	オリエンテーション	・一年間の授業の流れや試験についての説明										
	校歌 【知識及び技能】 歌詞の意味について理解し、歌詞を踏まえた歌唱ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 曲の特徴を踏まえ、曲に合わせた発声等の表現の工夫ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 学習内容を理解した上で、主体的に活動に取り組むことができる。	・歌詞の読解、歌唱。（感染症の状況によっては歌唱なし等の措置をとる） ・教材 プリント	○				○	歌詞の内容や曲の特徴を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 表現に関する要点を把握し、自身の声でどのように表現するか工夫が見られる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習した内容を理解し、曲の特徴を感受し、主体的に表現しようとしている。	○		○	4
	実技テスト		○						○		○	2
	器楽(ギター) 「音階・きらきら星」 【知識及び技能】 ギターの構造や構え方、チューニングなどの基本的な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 タブ譜の仕組みを理解し、ギターと関わらせて演奏することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ペアやグループでコミュニケーションをとりながら、練習を進めることができる。	・ギターの基本の理解（構造・構え方・チューニング） ・基本奏法の理解（アポヤント奏法、アルアイレ奏法） ・難易度別の課題の設定（経験者にはアルペジオ奏法での伴奏パートを指導） ・教材 ギター、譜面台、プリント				○		【知識・技能】 ギターの基本を理解し、課題の曲を正しい奏法で演奏することができる。 【思考・判断・表現】 タブ譜を読んで、曲の構造を理解し、美しい音色になるような工夫が見られる。 【学びに向かう力、人間性等】 集中して取り組み、より良い音への探求をしようとしている。	○		○	8
	実技テスト			○					○	○	○	2
	楽譜の読み方・書き方 【知識及び技能】 楽譜を読む上での基本知識であるト音記号とヘ音記号の音の読み方と主要な音符の種類を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 音の長さの違いを理解し、様々なリズムを読んだり書いたりすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 基本知識を理解した上で、地道に読譜や記譜に取り組むことができる。	・ト音記号とヘ音記号の読み方、書き方 ・四分音符を中心とした各種音符の長さとの関わり ・拍子とリズム						【知識・技能】 ト音記号における楽譜の読み方とヘ音記号における楽譜の読み方を理解し、音の高さと長さの違いに着目して正しく楽譜を読むことができる。 【思考・判断・表現】 学んだ知識に基づいて、楽譜に書き表したり、拍子やリズムの違いを意識して表そうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 楽譜の基礎的な読み方を理解した上で、実際の楽譜での表し方について考えることができる。	○		○	8
	小テスト								○	○	○	1
	リズム創作 【知識及び技能】 グループごとに正しい楽譜の書き方によるリズムアンサンブルを作成できる。 【思考力、判断力、表現力】 テーマに基づいた楽器やリズムを工夫し、より良い表現を模索することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 テーマを表現するために、それぞれがアイディアを出してグループで協力することができる。	・グループごとにテーマ設定 ・テーマに基づいた表現方法とリズム ・正しい記譜 ・リズムアンサンブルとしての曲の完成と表現の工夫 ・教材 打楽器を中心とした楽器、ノート、プリント、譜面台				○	○	○	○			12
	実技発表			○	○	○			○	○	○	2

2 学 期	ギターコードの演奏 【知識及び技能】 それぞれのコードの運指を理解し、コードが変わる際にスムーズな変更ができる。 【思考力、判断力、表現力】 一定のテンポを維持し、曲に合わせたギターコードによる伴奏ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 周囲の音にも気を配り、一体感のある演奏を工夫することができる。	・コードネームについて ・取り組みやすいコードの成り立ちと運指（G、C、D、Am） ・曲に合わせた奏法 ・歌に合わせた奏法	○	○	【知識・技能】 G、C、D、Amの運指を習得し、弾き表すことができる。 【思考・判断・表現】 楽器の特性を生かし、曲に合わせた演奏をしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 テンポ感や強弱等の工夫も行い、より良い表現の工夫をしようとする積極性が見られる。	○	○	○	8
	実技テスト		○			○	○	○	
	ハンドベル合奏 【知識及び技能】 ハンドベルの奏法を理解し、自分の担当のベルを適切に演奏することができる。 【思考力、判断力、表現力】 曲想やテンポを感じ取り、曲全体の雰囲気や曲に合わせた演奏をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 全員での合奏を行うにあたって、自分の担当の音に責任を持ち、集中して取り組むことができる。	・ハンドベルの奏法 ・担当の音の割り振り方と楽譜の読み方 ・テンポやリズムの確認 ・音色や曲の雰囲気の鑑賞 ・指揮の取り組み ・教材 ハンドベル、プリント、譜面台	○	○	【知識・技能】 ハンドベルの特徴や奏法を理解し、正しいタイミングと美しい音色で演奏できる。 【思考・判断・表現】 ハンドベル独特の音色を味わい、曲の雰囲気を感じ取りながら、適した奏法の工夫が見られる。 【主体的に学習に取り組む態度】 一体感のある演奏をするために自らの役割を意識し、意欲的に取り組むことができる。	○	○	○	6
	実技発表		○	○		○	○	○	1
3 学 期	器楽合奏 【知識及び技能】 曲の中での自分のパートの役割を理解し、その役割を意識した演奏をすることができる。 【思考力、判断力、表現力】 曲全体の仕上がりやイメージを想像し、その達成のためにどのような工夫が必要かを考え、実践することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 同じパートのメンバーとリズムを揃えるなど、周囲とコミュニケーションをとりながら活動することができる。	・課題曲を鑑賞し、完成をイメージ ・各パートごとの譜読み ・パート練習 ・合奏練習 ・鑑賞活動	○		【知識・技能】 曲やパートの特徴を理解し、その特徴を踏まえた演奏をすることができる。 【思考・判断・表現】 正しいリズムやテンポ感など、全体の仕上がりに欠かせない要素を踏まえ、表現しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲の完成をイメージし、目的意識を持ち、集中して取り組もうとしている。	○	○	○	8
	実技発表								1
	主要な作曲家とその作品 【知識及び技能】 主にバロック期からロマン派にかけての作曲家について、その要点を理解することができる。 【思考力、判断力、表現力】 それぞれの作曲家の作品を鑑賞し、その特徴を感じ取り、文章等で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に込められた思いや時代背景等を踏まえた上で、曲の良さや美しさを味わうことができる。	・西洋音楽史における一般的にもよく知られる作曲家について ・作品の鑑賞とその特徴 ・使用楽器 ・曲の構成や背景 ・ワークシート	○		【知識・技能】 西洋音楽史における作曲家について理解を深め、それぞれの作曲家の作品の特徴を理解することができる。 【思考・判断・表現】 作品の特徴や作曲家について理解した上で、他との違いを感じ取ったり、作品での表現について考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作品に込められた思いや、取り込まれている技法に気づこうとする積極性が見られる。	○	○	○	4
	小テスト			○					1
合計 70									